

「インクルーシブな学校運営」 通信 第9号

カリキュラム・マネージャー

B地区連携協議会開催

11月19日（水）、本年度2回目となる連携協議会で、令和7年度の「モデル事業」の進捗状況が報告され、今後の方向性について話し合われました。

協議の中では、「他者理解に繋がっている。」「取組の花が咲き誇ってきた。」「交流のよさや視野の広がりが生まれている。」「交流時の生徒の姿は素晴らしかった。」との取組への高い評価とともに、協力されている先生方への称賛の声をいただきました。

また、今後に向けて更に質の高い取組を目指してほしいとの意見が相次ぎました。その一部を紹介します。

（要約：カリキュラム・マネージャー）

- いろいろな取組ができているが、それぞれの生徒たちが今後どうしたいかをもっと聞きたい。
- 保護者や地域の方がどうしていききたいかを聞きたい。
- 生徒との共通言語が必要であり、教師が通訳の役割を果たすことが重要になる。
- 継続的な取組にするため、B地区の推進計画にある目的や生徒アンケート項目を踏まえた「育成を目指す資質・能力」を設定する段階にきている。
- 「オンライン共同学習」における中高養の対象学年、対象生徒の決定方法、2学年の学校間交流との関連など、事業終了後に向けて、教育課程の位置付けを検討してほしい。
- 授業略案の様式や指導目標の共有（共通化）についても検討してほしい。
- 「共に学ぶ会」が先生方の指導力や授業づくりにどのように生きているのか報告してほしい。
- ポートフォリオなどを作成し、学びの成果や繋がりを可視化できるようにしてほしい。

第5回「共に学ぶ会」 ＊ 問題行動の背景や当該生徒の心情の把握

11月20日（木）、本年度5回目となる「共に学ぶ会」が、教育大釧路校の教育実習生も参加して実施されました。

まず、Coから提示された「とある研修会」の場面をもとに、予期していない状況に置かれた時の気持ちや行動について考えました。その上で、いわゆる「問題行動」を「子どもの特性と環境設定がミスマッチを起こしている状況」と捉え、実際の事例を検討しました。

「問題行動」、「生徒の実態」、「発生環境」を観点に「ミスマッチの状況」を把握することを通して「問題行動」の背景や心情が徐々に明らかになり、新たな気づきを得られた先生もいたようでした。実習生の皆さんにとっては、リアルな教育現場を知る機会にもなったようです。（詳しくは11月4日付「ふきのとう」）



更農から「規格外じゃが芋」の提供

11月21日（金）、中高養の給食に、更農から「規格外じゃが芋」12kgの提供を受けた「地産地消メニュー」が登場しました。

カレーライス、豆腐のスープ、いんげんと大根のサラダ、牛乳をメニューとする給食には、じゃが芋の他、いんげん、豆腐、大根（以上、中札内産）、玉葱（芽室産）、人参（幕別産）、牛乳（十勝産）とふんだんに地元の食材が使われました。



※ 令和7年度「高等学校教育課程編成・実施の手引」から抜粋

「モデル事業を活かし、食育の一環で何か工夫できないか」と考え、「連携校への要望」に「規格外じゃが芋の提供」を上げたところ、更農が快く応えてくれました。栄養教諭の先生は「生産者の顔が見えることで感謝する心をはぐくみ、食品ロスを減らすSDGsの理解にもつながるのではないかと思います。」と話されていました。

「共に学ぶ会」

道教委指導資料に掲載

道教委が各学校への指導資料として毎年発行している「高等学校教育課程編成・実施の手引」の令和7年度版に、「地域の特別支援学校と連携している取組」の実践事例として「共に学ぶ会」が取り上げられています。

ウ 地域の特別支援学校と連携した取組

B高校では、近隣の特別支援学校と連携して、特別支援教育についての理解・啓発を目的とした研修会を実施している。令和6年度は、オンライン研修を計6回実施した（図9）。

教員が学びたい特別支援教育の知識や技能を身に付けられるよう、研修のテーマは教員の研修ニーズを踏まえて設定し、特別支援学校のコーディネーターがファシリテーターとなって実施した。

例えば、「整理整頓ができず日常生活に影響がでている生徒の理解と対応」をテーマとして実施した第5回の研修会では、図10のワークシートを活用しながら、説明を受けた後、教員同士で話し合い、本校の取組の現状を確認するとともに、今後の方策について理解を深めた。

第1回	「優先順位を無視しがちな生徒の理解と対応」
第2回	「場面緘黙の傾向のある生徒の理解と対応」
第3回	「他人のささいな言動に振り回される傾向のある生徒の理解と対応」
第4回	「作業や学習が止まると、その後の継続が難しい生徒への理解と対応」
第5回	「整理整頓ができず日常生活に影響がでている生徒の理解と対応」
第6回	「苦手なことには初めから取り組もうとしない生徒の理解と対応」

図9 近隣の特別支援学校と連携して実施している研修会のテーマ

整理整頓、どこからアプローチする？

教室を見渡すと、生徒の机の中がぐちゃぐちゃで、いつのプリントも分からないものが出てくる…探し物が見つからない…ということが多くあると思います。また、授業中にも必要のないものが机に出っぱなしになっており、学習スペースが狭くなってしまいうことも度々見受けられます。今回は整理整頓が苦手な生徒への支援・指導の工夫について考えていきます。

手立て1: 視覚的に分かるお手本を示す

- ・授業が始まる前の机上
- ・学校にいる間の机の中
- ・下校時の机の中
- ・整理整頓された棚



手立て2: 具体的な言葉掛けをする

- ・「国語のプリントはピンク色のファイルにまとめてください。」
- ・「ファイルは後ろの棚にしまってください。」
- ・「筆箱以外の物は、机の中にしまってください。」



手立て3: 言葉掛けの方法、タイミングを考える

- ・こまめに促す
- ・「今」「始める前」「帰る前」など、いつやるべきなのかを具体的に伝える
- ・呼名や肩をトントンしてから、「〇〇をしてください」と伝える
- ・時間割に整理整頓のタイミングを示し、指示がなくても動けるようにする

道徳科 国語科	英語科	数学	理科	社会科	体育科	音楽科	家庭科	保健科	総合	外国語	キャリア教育	特別支援
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

図10 図9の第5回研修会において活用した資料（一部抜粋）

※ 掲載された研修の様子は令和6年度カリ・マネ便り⑯に掲載しています。